

令和六年度「家庭の日」作文コンクール入賞作品

最優秀賞

わたしのたから物

鳥取市立福部未来学園 三年 本 田 有梨佳

二年生の時、ほぼ毎日、日記が宿題に出ました。さいしょは、文を書くのがめんどろで、何を書けばいいのかわかりませんでした。でも、毎日書いていくと、日記を書くことが楽しくなり、日記に書きたいことがどんどんふえていきました。二年生の宿題の日記は、二百二十七日分となりました。

二年生が終わりに近づいたある日、お母さんが、一さつの黄色いノートを買ってきました。そして、

「今日からこれを家族の交かん日記にしよう。」

と言いました。まず、みんなでルールを決めてノートのさいしょのページに書きました。

- ① わたし、お姉ちゃん、お母さん、お父さんのじゅんに回すこと。
- ② この交かん日記は、家族四人がいには見せないこと。
- ③ ②と書かれた内ようは、家族四人だけのひみつにすること。

です。さい後に、わたしが表紙に『家族交かん日記』とペンで書きました。わたしはわくわくしました。わたしがさいしょに書いた日記は、その日にあった出来事でした。次にわたしの番がやってくるのが、まち遠しかったです。いよいよ二回目の日記を書く日が来ました。ノートを開くと、一回目にわたしが書いた日記に、家族みんなからのメッセージが書かれていました。とてもうれしかったです。家族みんなとお話をしている気分になりました。わたしもみんなの日記にメッセージを書きました。みんながよろこんでくれることを想ぞうして、心をこめて書きました。

わたしとお姉ちゃんはよくその日にあった出来事を書きます。お姉ちゃんが学校でどんな風にごしているのかわかります。お父さんはよく仕事のことを書きます。たくさんの人によりよう理を作つて、よろこんでもらうことが分かってうれしいです。お母さんはよく、家族みんなにおねがいたい事を書きます。日記という

より、伝言メモみたいですよ。でも、お母さんが今こまっていることが分かります。もっとお手伝いをしなくちゃと思います。

わたしの家は、お父さんもお母さんもおそくまで仕事をしているので、みんなでゆつくりごはんを食べたり、話をしたりする時間が少ないです。でも、この交かん日記でたくさん話をする事ができます。日記には、他にもいいことがあります。それは、見返すことができることです。はじめて日記を書いた日のこと、運動会の日のこと、みんなで外食をした日のこと、いろいろな思い出がよみがえり、心が温かくなります。

これからこのノートにどんな思い出が書かれるのか想像するとわくわくします。この交かん日記はわたしのたから物です。

